

朝倉市・東峰村に ちひろカレンダーを届けました

仮設住宅4ヶ所107戸＋集会所3ヶ所と小中学校21校の全クラスに1本ずつ＋1本



朝倉市教育委員会には、小中学校 20 校分を配布依頼



東峰村役場で岩橋副村長と面談



東峰村団地の福嶋自治会長代理と懇談



東峰村団地の明るい集会所。行事の時はほとんどの方が集まって楽しい時間を過ごします。



集会所にも1部どうぞ！

県労連などが中心となって九州北部豪雨の被災地支援を続けているので、「カレンダーを仮設住宅に届けるにはどうしたらいいか」と相談をする中、知恵と募金にも協力しようと県労連から回答をいただきました。

12月20日、県労連・民医連・新婦人・県原水協の8人が2組に分かれ、朝倉市3ヶ所と東峰村1ヶ所の仮設住宅団地、東峰村に唯一の学校東峰学園（小中一貫校）を訪問。朝倉市の小中学校20校には教育委員会から届けていただき、計352本を贈呈することができました。

訪問した仮設住宅では自治会長代理と懇談。各戸訪問にも同行してもらい、安心して在宅のみなさんと話すことが出来ました。話をする中で、多方面からの支援に感謝の言葉を述べられますが、通院や生活の不便さなどを考え、今までの生活が突然奪われ、先行きの不安・精神的な疲弊は覆うべくも無いことが感じられました。

東峰村唯一の学校「東峰学園（小中一貫校）」では小規模校のよさが伺えるお話で、被災の時も決め細やかな対応が出来た様子が伺えました。ただ、宝珠山村と小石原村の合併の弊害は避けられず小石原地区の生徒や保護者の不安・不便はいかばかりだったかと思いました。

高齢化する地域、災害弱者に対する支援はもっと国を挙げてすることが必要と思ったことです。

（詳しくは「被災地訪問贈呈ニュース」を参照ください）



東峰村仮設住宅のみなさんにお届けしました



東峰学園校長・教頭と懇談。原水協通信
新年号も渡し、「ヒバクシャ国際署名」の
お願いもしました



生徒会長が代表で受け取ってくれました



裏山が崩れ家屋に被害が



ビニールハウスも泥で埋まったまま



いまだに流木が家の横に放置されて

未だに残る被災の爪痕を見て、あの豪雨災害からもう5ヶ月経ったのではなく、まだ5ヶ月しか経っていない、復興までの道のりはまだ遠いのだと改めて実感しました。あの日を思い出すから雨音が怖い、生活が落ち着いてきた今のほうが精神的につらくなるというお話を聞き、助けが必要なのは決して衣食住だけではないからこそ、娯楽の限られた仮設住宅の暮らしの中で、ちひろカレンダーがささやかでも生活の彩りになってほしいと願います。仮設住宅は2年の制限があり、電車は不通でバスの本数も少ない。医療費の窓口負担は被災も関係なく3割負担。助けが必要な人に対し、これでは不十分なのは、国が守るべきは国民ではないのかと、もどかしさを覚えました。(N)